

冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 第2回アスリート部会 意見要旨

1. アスリート部会の活動方針について

<オリパラ教育>

- ・小中学校以外にも高校にも行きたいので、北海道としっかり連携してほしい。行動力の高い大学生にも講義を行うなど、積極的に関わっていききたい。(鈴木副部長)
- ・都心と地方の学生が接する機会を増やし、輪を広げるきっかけとなる取り組みを行いたい。(川端委員)
- ・学生に講義を行うと大人とは違う視点のアイデアが出てくる。(川端委員)
- ・先につながる数年後に向けた取り組みを行っていききたい。(佐藤委員)

<ボランティア>

- ・一度で終わらせるのではなく、その経験を活かして、市内、道内を回るレガシーとなってほしい。(川端委員)
- ・スポーツボランティアも情報を発信する場が必要である。(鈴木副部長)
- ・1972年の経験者が経験を語る場を設けてもいいかもしれない。(山崎委員)

<オリパラ開催の素晴らしさのアピール>

- ・北海道や札幌にはオリパラを生で観戦したことがある人は少ないので、その感動を肌で感じている我々が何らかの形で伝えたい。(鈴木副部長)
- ・スポーツの原点は生の観戦ということを発信して、チケットの販売方法なども検討すべきである。(川端委員)

2. 冬季版総合ナショナルトレーニングセンターについて

<冬季競技アスリートの活動拠点>

～周辺の冬季競技施設と連携した施設～

- ・東京のNTCは夏季競技中心なので、冬季競技のトレーニング施設が必要である。1箇所にとどめるのが理想だが、バランスが難しい。(川端委員)
- ・スケート王国の北海道へ誘致すればメダル獲得につながる。(鈴木副部長)
- ・カルガリーのオーバルは内側にショートトラックやアイスホッケーのリンクがあり、他競技の練習を見ることで勉強や参考になる。1箇所にとどめることで施設維持費が抑えられるのではないか。(深澤委員)
- ・NTCと競技別強化拠点の連携が重要である。(鈴木副部長)

～様々な競技のアスリートや指導者が交流できる環境～

- ・ジュニアや指導者が競技を超えて情報交換する場は重要である。(川端委員)
- ・海外のアスリートが利用したいと思えるような NTC とするべきである。(出口委員)
- ・冬季競技が中心ではあるが、大会等で利用しない期間に夏季競技が利用できるようにしてもいいのではないか。(山崎委員)
- ・パラリンピック競技は人口が少なく、規模が小さいため、他の競技と連携して強化していきたい。(永瀬委員)

<競技レベルの向上>

～1年中利用できる冬季競技専用のトレーニング設備～

- ・冬季競技は1年中トレーニングできる環境が必要である。(川端委員)
- ・1年中トレーニングできる環境によって、さらに強化できる。(出口委員)
- ・夏にどれだけ雪上で練習できるかが重要である。(阿部部会長)
- ・小さくてもいいのでスラロームのコースを整備してほしい。(川端委員)
- ・トンネルのクロスカンントリーコースは夏でも利用できるのもので、強化につながる。(阿部部会長)
- ・クロスカンントリーとバイアスロンの施設は一体化できると思う。(出口委員)
- ・オリンピックが開催できるオーバルはリンク周りが 700m あり、雪が融けないので、クロスカンントリーコースとして利用できるのではないか。(鈴木副部会長)
- ・夏は陸上トレーニングが中心で感覚を掴む程度にリンクを利用する。(深澤委員)

～スポーツ科学・医学・情報などの先端的な研究～

- ・東京での検査や測定の手間が省ける。(川端委員)
- ・冬季競技も共通で研究できるものはあり、集約する必要がある。(出口委員)
- ・冬季競技専門の研究や情報収集ができる施設としてほしい。(川端委員)
- ・北海道の大学と連携して研究を行ってほしい。東京の NTC のように食の研究も行ってほしい。(鈴木副部会長)
- ・北海道出身アスリートが研究者と意見交換を行う就職先としてほしい。(川端委員)

<ウインタースポーツ人口の拡大>

～一般の人が見学や体験会などを行える環境～

- ・アスリートだけではなく、一般の人でも利用や講座の受講、トレーニング風景の見学などができる施設としてほしい。(川端委員)
- ・一般の人でもアスリート食を楽しみながら、練習を見学できるとウインタースポーツとの距離が縮まり、海外のスポーツ文化に近づくのではないか。(川端委員)
- ・セキュリティ等の問題はあるが、トップアスリートの練習風景を見学できるようにすると、人を集めることができるのではないか。(出口委員)
- ・練習日程をホームページで公開して、情報発信をするべきである。(鈴木副部長)
- ・アスリートの就職先とすることで子どもや高齢者などへのウインタースポーツの普及活動も行える。(川端委員)

～トップアスリート以外やジュニアの育成や発掘～

- ・地域の指導者が利用することで指導力が向上し、ジュニア育成につながる。(阿部部長)
- ・オリパラ招致を目指すためには、地元アスリートが出場・活躍することが盛り上がりにつながるので、ジュニアの育成を視野に入れた施設としてほしい。(永瀬委員)

<障がい者スポーツの環境整備>

- ・札幌に冬季オリパラの NTC を整備することで、パラリンピアンが北海道で活動できるようにしてほしい。(永瀬委員)
- ・降雪期を考慮したアクセスについて検討してほしい。(永瀬委員)

<総括（阿部部長）>

- ・冬季版総合 NTC が建設されることでアスリートのトレーニング環境が非常に良くなる。
- ・アスリートや指導者の間で多くの交流が生まれることで互いに良い影響を与え、それぞれの競技力が更に上がる。
- ・市民や道民がトップアスリートを見て、ウインタースポーツに触れる場面が増えることで、次の世代のアスリートを育成・発掘することにつながる。
- ・我々オリンピック・パラリンピアンが直接スポーツ庁等の関係省庁に冬季版総合 NTC の必要性を訴えていきたい。